

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和2年度第2回相模原市立図書館協議会				
事務局 (担当課)		相模原市立図書館 電話：042-754-3604(直通)				
開催日時		令和2年11月17日(火)午後6時～7時15分				
開催場所		相模原市立図書館 2階 中集会室				
出席者	委員	9人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	9人(図書館長、相模大野図書館長、橋本図書館長、他6人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 会長及び副会長の選出 2 議題 (1) 令和元年度図書館事業評価について 3 その他				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事務局等の発言)

1 会長及び副会長の選出

委員の互選により、会長に小山委員、副会長に高柳委員が選出された。

2 議 題

(1) 令和元年度図書館事業評価について

事務局から資料に基づき説明し、質疑応答を行った。

【資料 1】令和元年度相模原市図書館事業評価について

外部評価については、評価シートに記入すれば良いか。

また、蔵書に関する指標、利用に関する指標、来館に関する指標と大きく 3 つの指標があるが、この指標が決まった経緯を簡潔に教えてほしい。

外部評価は、後日送付する評価シートにご記入いただきたい。

また、成果指標については、『相模原市図書館基本計画』で定めた成果指標に基づき設定している。目標値については、評価手法を検討した時点で、『相模原市立図書館基本計画』で定めた数値が実態と離れたものとなってしまうため、実績値の経年推移等を参考に定めている。

成果指標に関して、設定に当たり当時の市長の市政方針等の行政的な指針は反映されているのか。

『相模原市図書館基本計画』の上位計画として教育局全体の『相模原市教育振興計画』があり、さらにその上位計画として、市の総合的な方針を定めた『新・相模原市総合計画』がある。

2 つの上位計画の方針を踏まえ図書館基本計画を策定しているが、上位計画では図書館に関する成果指標等は限られているため、『相模原市図書館基本計画』の中で具体的な成果指標を設定し、それを図書館事業評価で採用している。

これまでこれらの成果指標に沿って評価をしてきた経過があり、すぐに変えることは困難と思われるが、蔵書冊数や貸出冊数のみで評価を行うことは時代にそぐわないと考える。成果指標自体が時代にそぐわないように見受けられるので、見直しが必要ではないか。

方針としては『相模原市教育振興計画』や『新・相模原市総合計画』に基づいているが、これらの計画では図書館に係る部分は詳細に決まっていなため、『相模原市図書館基本計画』で上記の指標が採用され、令和 2 年度からの『第 2 次相模原市図書館基本計画』にもその指標が受け継がれているとの理解で良いか。

令和元年度は、平成29年度からの3年間の最終年度として、『相模原市図書館基本計画』で定めた上記の成果指標に基づいて、継続的に評価を実施したい。

令和元年度までの計画における課題も踏まえ、令和2年度からは、『第2次相模原市図書館基本計画』で定めた新たな成果指標に基づいて評価を実施したい。評価手法等の見直しについては必要性を認識しており、協議会でご意見を伺いながら検討を進めたいと考えている。

補足として、近隣市町村では大和市のシリウスが図書館の成功事例としてあげられるかと思うが、そういった図書館での自己点検・自己評価の情報を収集し、相模原市での評価に生かすことができるのではないかと考える。

令和元年度は、平成29年度からの3年間の評価における最終年度なので、継続的に評価を行うということは承知した。ただ、先の指摘にもあったように、令和2年度以降については変えていっても良いのではないかと考える。

現在の評価については、図書館がやりたいことと、成果指標との対応関係がずれているような印象を受けた。例えば、どのような蔵書にしたいかということを考えて上で重視する指標を選び、全国平均や政令指定都市等の数値も共有しながら、相模原市の状況や目指す方向性を評価して図書館運営に生かしていただくことが望ましいと考える。

5ページの「利用に関する指標」について、全体の貸出冊数とは別に、子どもの貸出冊数が数値化されているが、何か理由があるのか。著しく減少しているというようなことはあるのか。

成果指標として子どもの貸出冊数を採用しているため、掲載している。『第2次相模原市子ども読書活動推進計画』とも連携し、子どもや中高生世代への取組を進めており、その成果を測る指標として子どもの貸出冊数を設定した。

市民1人当たりの貸出冊数の計算は、どのように算出しているのか。相模原市民全体で計算するのか。図書館を利用していない人も含まれるのか。

貸出冊数の総数を相模原市の人口で除したものである。図書館利用者だけで算出したものとは違った数字になる。

先ほどの指摘にあった時代に沿った指標とは、具体的にどのようなものか。

図書館の置かれた地域性や、公共図書館・大学図書館等の館種によっても異なるが、例えば大学図書館であれば、一般的には大学における知のハブや拠点であることが求められており、さらに各大学で具体的な図書館のあるべき姿を定めている。そのあるべき姿に向けて、旧来の図書館のあり方ではできにくかった機能であっても、必要であれば取り入れていく等の改革を行っている。

相模原市においても、地域が求めていることが何かを掘り下げた上で図書館のあり方を整理していくと、新たな図書館像ができてくるのではないかと考える。適切な評価や指標を挙げるのは難しいが、図書館のあるべき姿を基に、評価の軸足も考え

ていった方が良いと思われる。そうするならば、市長を巻き込むことが最も動きが速いと思うが、それは可能なのか。

図書館協議会は図書館長の諮問機関であるので、市長に対して直接意見を述べる立場にはないが、私たち委員が市民の声の一部を代表するという視点から、館長に対し意見を述べるができる。その意見を受け取って館長がどう動くかということになるが、その判断は一任するところである。

公共図書館で成功事例とされている図書館は、市長や行政のトップを巻き込んで動いているのではないかと思う。

新しい図書館がどうあるべきなのか、図書館は図書館として議論を進め、図書館のオーナーである市民の側でも議論が必要と考える。その一端を担う場所として図書館協議会という場があるので、委員それぞれの立場から意見を持ち寄っていただき、多角的な意見交換を行いたい。

公民館図書室には地域の人々が多く来室する。昨今のコロナ禍では、図書室の休室にあたって多くの問い合わせや開室の要望を受けており、図書室の重要性を改めて感じた。

地域性から、子どもから年配の方まで幅広い年代の来室があり、蔵書も幅広く揃えなくてはと痛感している。

6ページの「来館に関する指標」について、入館者数とあるが、図書館を訪れた人の数ということで良いか。

例えば、読書室は平日夜でも席が埋まっていると感じたが、特に勉強や宿題をしている学生が多く、自習室として利用されているように見受けられた。その場合でも、来館者として数えるのか。

来館目的を問わず、図書館を訪れた方を来館者として計上している。

図書館を専門としている立場からは、各指標がどのような意味を持つのか、その数字が多いのか少ないかなど、全国平均や近年の傾向などはお伝えできる。また、市民の多様なご意見に対しての考え方や受け止め方も、定型的ではあるがお示しできるので、ご不明な点があればお尋ねいただきたい。

図書館評価に取り組むにあたっては、本日のやりとりに関わらず、委員各人の経験や立場を活かし、それぞれの目線から率直なご意見を評価としてご提出いただきたい。

成果指標の補足説明として、『第2次相模原市図書館基本計画』の33ページに、8つの新たな成果指標を掲載している。令和2年度以降はこれらの成果指標について評価を行うとともに、これらの指標で測り切れない部分については、他の取組や数値の状況なども交えながら、図書館事業評価の中で示していきたいと考えている。

2 その他

(1) その他

次回の図書館協議会については、1月～2月頃を目途に開催を予定している。各委員に評価いただいた結果を取りまとめ、報告させていただく予定である。今年度の開催回数と、今後の開催計画はどのようになっているか。

今年度はあと1回を予定している。来年度は年間5回程度の開催を予定しており、新たな図書館事業評価等が議題になると考えている。コロナ禍の状況も踏まえながら、開催時期について検討していきたい。

平成30年度から、「次世代に引き継ぐ淵野辺駅南口周辺のまちづくり」において、市立図書館を含めた公共施設の再整備等について検討しており、本協議会から有識者会議に小山会長が、市民検討会に高柳副会長が参加している。

今後の議論の状況にもよるが、本協議会にも関わる大きなテーマとなる可能性があるため、各委員にもご承知おきいただきたい。

以上

相模原市立図書館協議会委員出欠席名簿

	役 職	氏 名	所 属 等	出欠席
1	会 長	小山 憲司	中央大学文学部教授	出 席
2	副 会 長	高柳 眞木子	みらい子育てネットさがみはら 連絡協議会	出 席
3	委 員	佐藤 正文	相模原市立小学校長会	欠 席
4	〃	榎本 泰行	相模原市立中学校長会	出 席
5	〃	高井 登志子	相模原市公民館連絡協議会	出 席
6	〃	金子 友枝	相模原市社会教育委員会議	出 席
7	〃	大谷 康晴	青山学院大学 コミュニティ人間科学部教授	出 席
8	〃	重光 崇	女子美術大学 図書美術館グループグループ長	出 席
9	〃	田嶋 いづみ	公募	出 席
10	〃	松橋 利光	公募	出 席